

木材需給動向について (中部地区)

令和2年7月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格

①直近の価格推移（原木市場・共販所）

スギ（中部地区・全国）

②過去の価格推移との比較

(2) 製品価格の推移・動向

2 生産等の動向

(1) 原木生産の動向（中部地区）

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

①製材（全国・中部地区）

②合板（全国）

③木材加工の動向（中部地区）

3 住宅着工戸数の推移

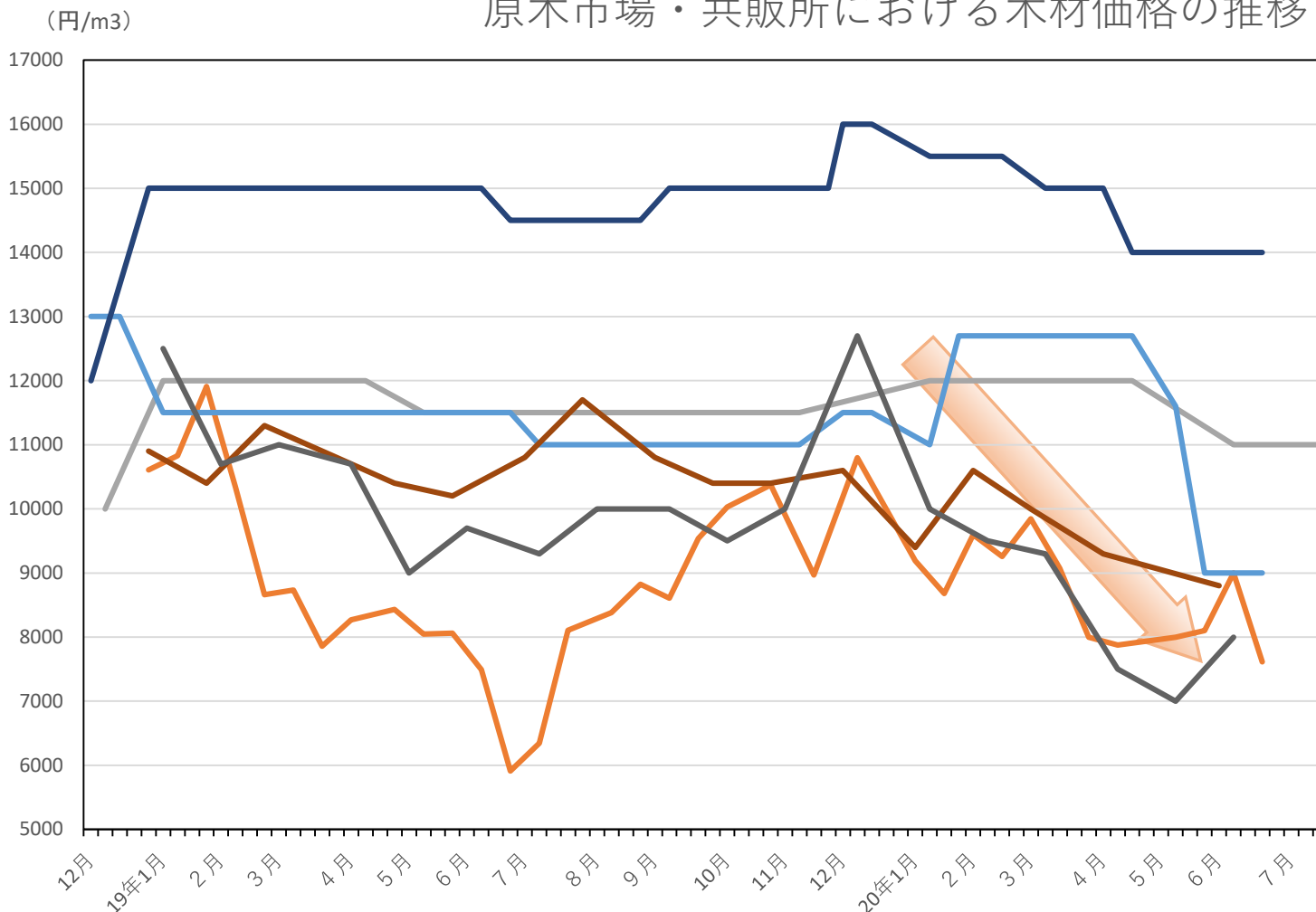
4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 原木価格 ①直近の価格推移

ア) スギ (中部地区) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 昨年の富山県を除き、本年は、昨年末から価格が大きく下落している。
- ・ 本年6月末のスギ原木価格は、**対前年比22%減~12%増**。

原木市場・共販所における木材価格の推移



— 富山県 — 長野県
 — 岐阜県 — 愛知県
 — 石川県 — 福井県

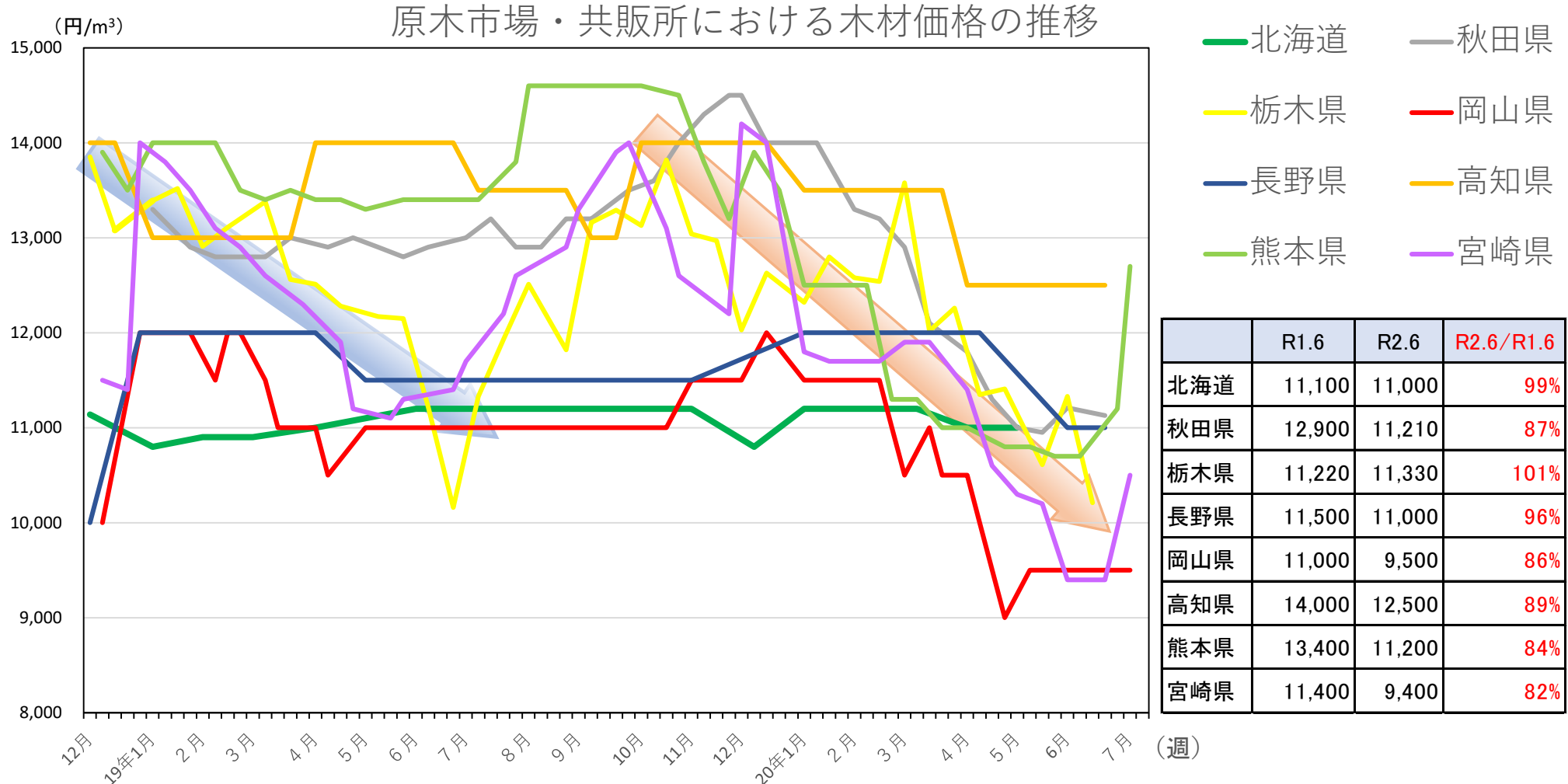
	R1.6	R2.6	R2.6/R1.6
富山県	8,059	9,000	112%
長野県	11,500	11,000	96%
岐阜県	11,500	9,000	78%
愛知県	15,000	14,000	93%
石川県	10,200	8,800	86%
福井県	9,700	8,000	82%

注1：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

1 価格の動向 (1) 原木価格 ①直近の価格推移 (原木市場・共販所)

イ) スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きく急となっている。
- ・ 6月下旬から、熊本県、宮崎県では価格の回復が見られるが、豪雨災害による出材減が要因の一つと考えられる。
- ・ 本年6月のスギ原木価格は、**対前年比18%減~1%の増**。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。

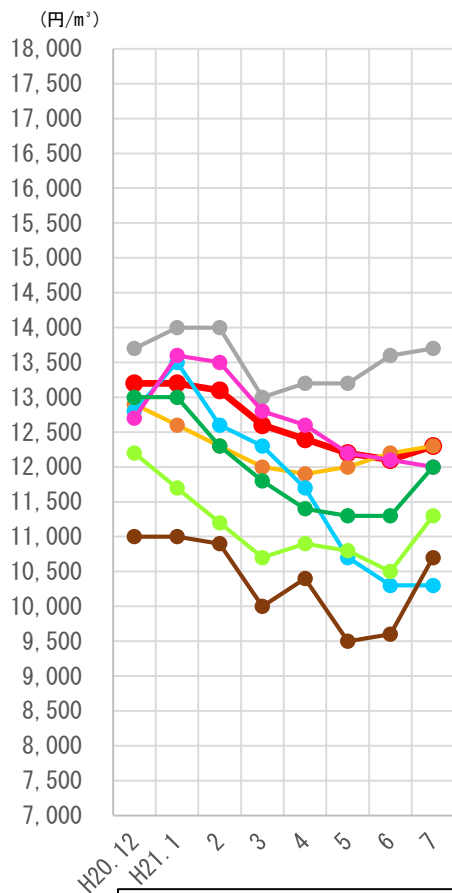
資料：林野庁木材産業課調べ

②過去の価格推移との比較 (スギ中丸太φ24~28cm、3.65~4.0m)

過去に原木価格の下落幅が大きかった時期と比較すると、

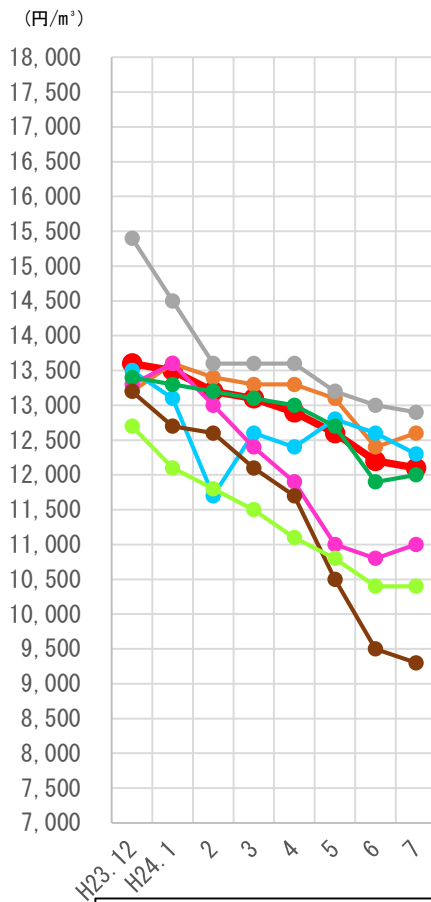
- ・ 為替の影響で近年、**価格は高く推移**。
- ・ 大分県、宮崎県など**生産量の多い地域ほど下落幅が大きい**傾向。
- ・ 本年6~7月にかけて**価格の底入れ**があるかどうかを見極める必要。熊本県、大分県では兆しが見られる。

リーマンショック (H21)



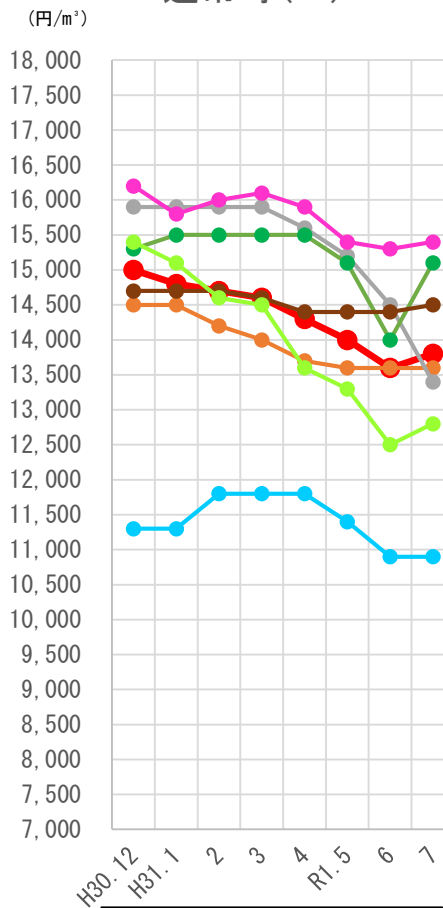
(為替) 90~99円/ドル

欧州円高 (H24)



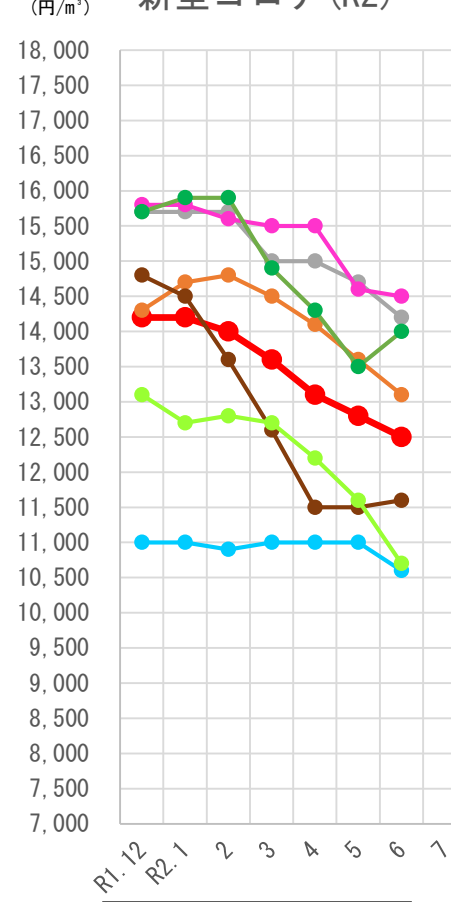
77~82円/ドル

通常時 (R1)



108~112円/ドル

新型コロナ (R2)



107~110円/ドル

● 全国 ● 秋田県 ● 栃木県 ● 岡山県 ● 愛媛県 ● 熊本県 ● 大分県 ● 宮崎県

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は価格の下落が見られる。
- ・住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	→55,000	▲ 3,000
首都圏	54,000	→53,000	53,000	53,000	53,000	0
大阪	55,000	55,000	→54,000	54,000	→52,000	▲ 2,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	→60,000	→55,000	▲ 5,000
九州	52,000	→50,000	50,000	→48,000	48,000	0
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	0

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
首都圏	66,000	→65,000	65,000	65,000	65,000	0
大阪	64,000	64,000	→63,000	63,000	→61,000	▲ 2,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	→63,000	▲ 2,000
九州	62,000	62,000	→61,000	61,000	61,000	0
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	0

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	0
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	0
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	-	-
広島	1,900	→1,880	1,880	1,880	→1,860	▲ 20

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	0
首都圏	1,050	→1,030	1,030	→1,010	→ 980	▲ 30
大阪	1,050	→1,010	→1,000	→ 990	→ 950	▲ 40
名古屋	1,050	→1,020	1,020	→1,000	-	-
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-
広島	1,070	→1,050	→1,030	1,030	→1,000	▲ 30

2 生産等の動向

(1) 原木生産の動向（中部地区）

素材生産事業者への影響について、

- ・ 出荷状況は、製材・合板工場の受入制限が長期化しており、依然として厳しい状況。
- ・ 原木販売価格は、多くの県で下落する傾向にあり、経営への影響が懸念。
- ・ 事業者は、可能な範囲で、保育等への作業種へ振替を実施。

○原木の出荷状況、販売価格

【4月時点】
素材生産事業者の4割
（全国ベース）が、既に
出荷状況が悪化と回答

【5月以降】
中部地区においても、
原木滞留や素材生産の
見合わせ等が発生

【現在】
合板工場、製材工場の受入制限
が長期化。素材生産事業者の経
営への影響が懸念される状況

➤ 具体的な声

- ・ 一部工場では**20%の減産**体制に入っており、あわせて**原木入荷を制限**。価格の引き下げも行われている。行き場の失った原木が山土場に滞留している。
- ・ 木材需要の大幅な減少のため**素材生産抑制**を呼びかけ、例年比で**35%減**に。
- ・ 原木販売価格が低下傾向にあり、採算性が悪化。資金繰りに懸念もでてきている。

○作業の移行状況

➤ 具体的な声

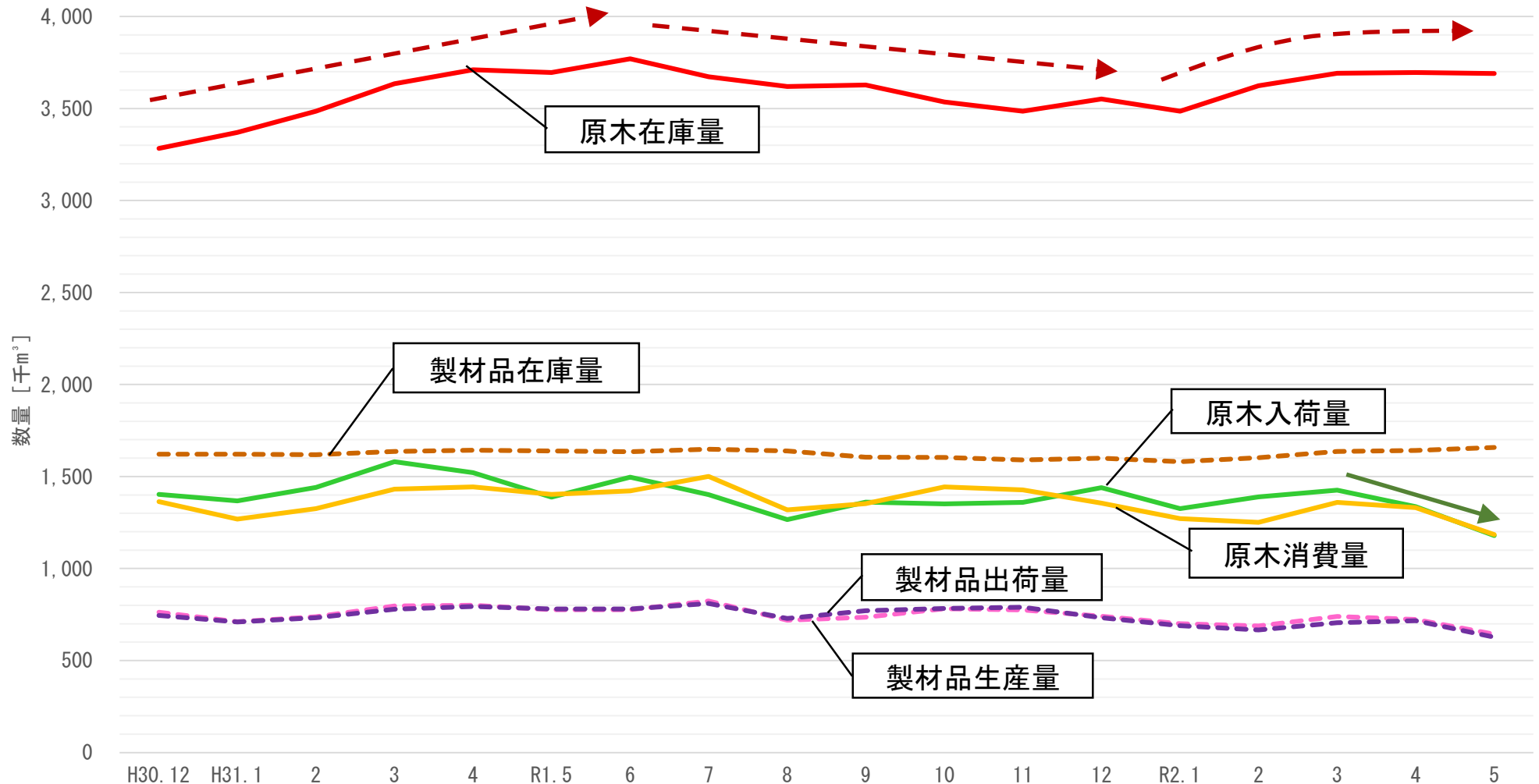
- ・ 原木生産以外の路網整備や保育等に作業を振り替えている。

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

① 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・ 製材品の生産量、出荷量、在庫量は年間を通じて大きな変化はない（グラフの破線部分）。
- ・ 原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、**原木の入荷量・消費量は減少**のトレンド、**在庫量は増加**のトレンドから**横ばいに移行**しつつある。



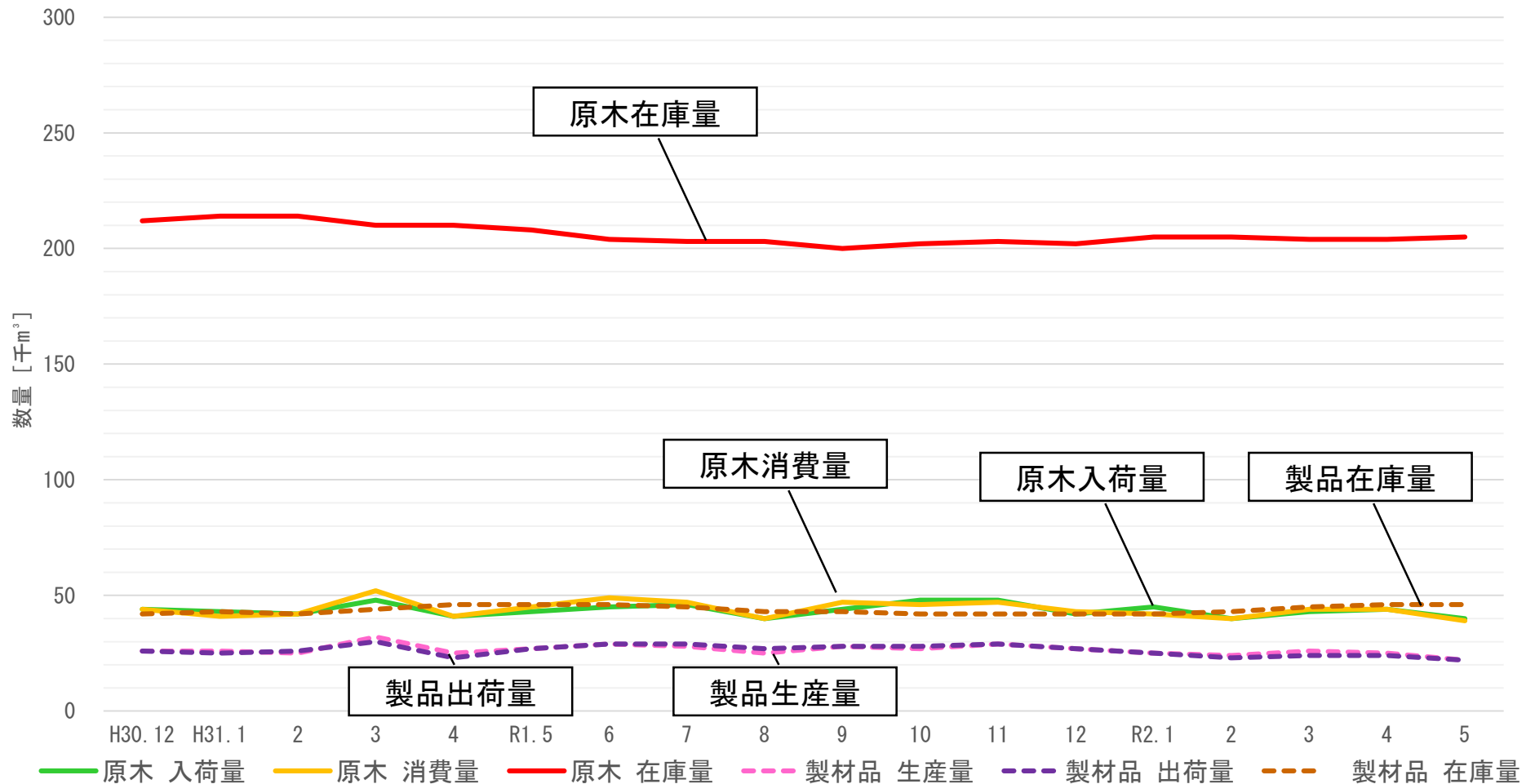
資料：農林水産省「製材統計」

(2) 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

① 製材 (中部地区)

「製材統計」によると、中部地区においては、

- ・ **製材品**の生産量、出荷量・在庫量は概ね横ばいにある。
- ・ **原木**も入荷量・消費量・在庫量ともに概ね横ばいで推移している。

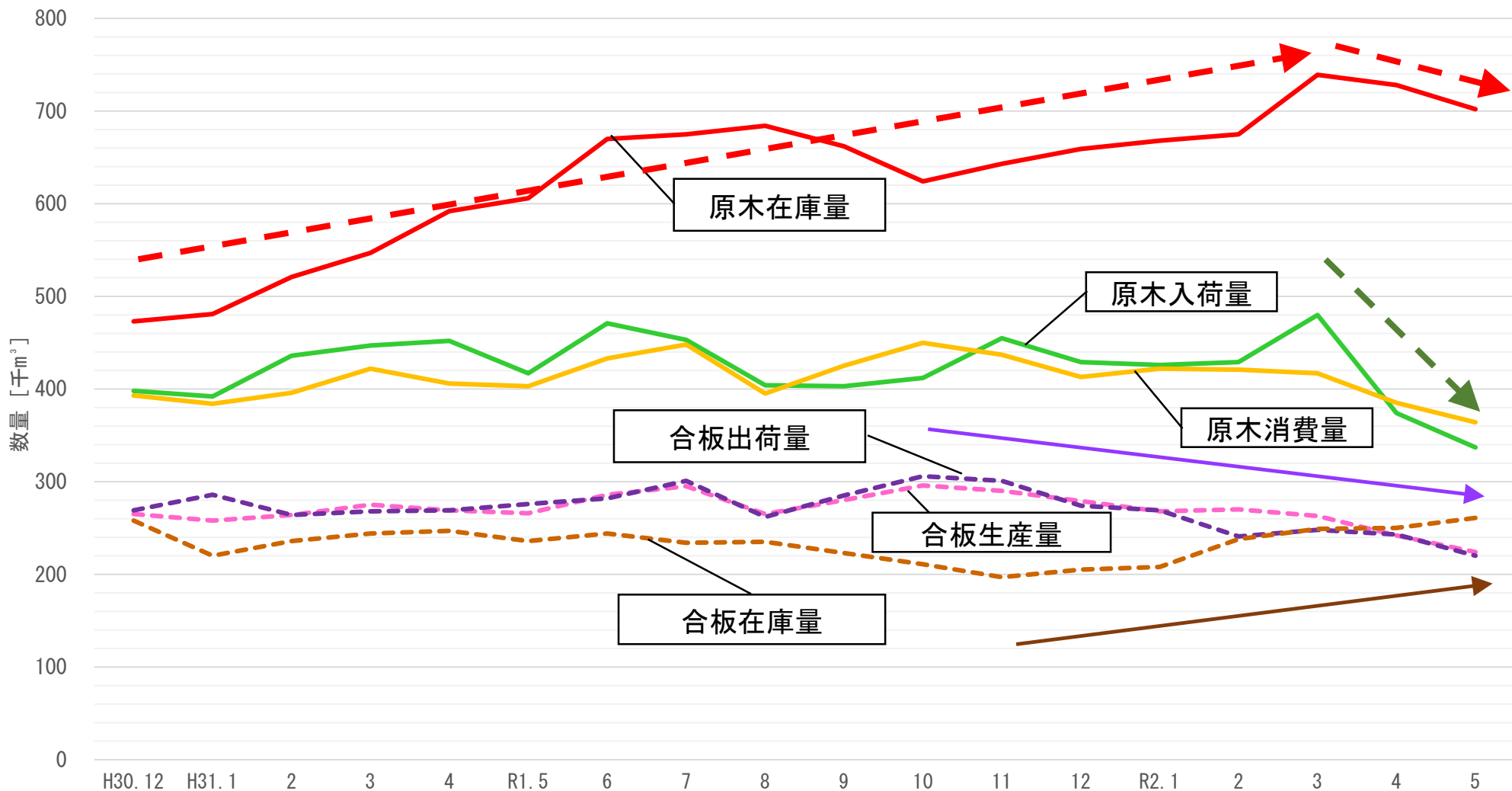


資料：農林水産省「製材統計」

②合板（全国）

「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にある一方、在庫量は増加傾向（グラフ下部破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返しているが、4月以降の入荷量は急激に減少。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、3月以降再び減少傾向にある。



③製材・合板等の動向（中部地区）

製材・合板工場等への影響について、

- ・ 4月以降継続して、減産している工場が多い。更に現在は、一部で20%を超える減産を実施している工場もある。
- ・ 製品の減産に伴い、原木の入荷制限を継続。また、一部の工場で、入荷制限の割合を引き上げ。

○製品販売の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち4割
- ・ 合板工場のうち6割の工場が減産（全国ベース）

【5月以降】

中部地区においても、製品販売不振のため、減産を継続

【現在】

減産を継続。
さらに、一部の工場では20%を超える減産を実施

➤ 具体的な声

- ・ 一部工場では、20%の減産操業している。一時的に40%減産した工場も。
- ・ 製材品の出荷量が、昨年同期から、20~30%減少している。
- ・ プレカット工場によっては、売上げが昨年同月比で50%減の見込み。

○原木入荷の状況

【4月時点】

- ・ 製材工場のうち2割
- ・ 合板工場のうち4割の工場が原木入荷を制限（全国ベース）

【5月以降】

減産に伴う、入荷制限を継続

【現在】

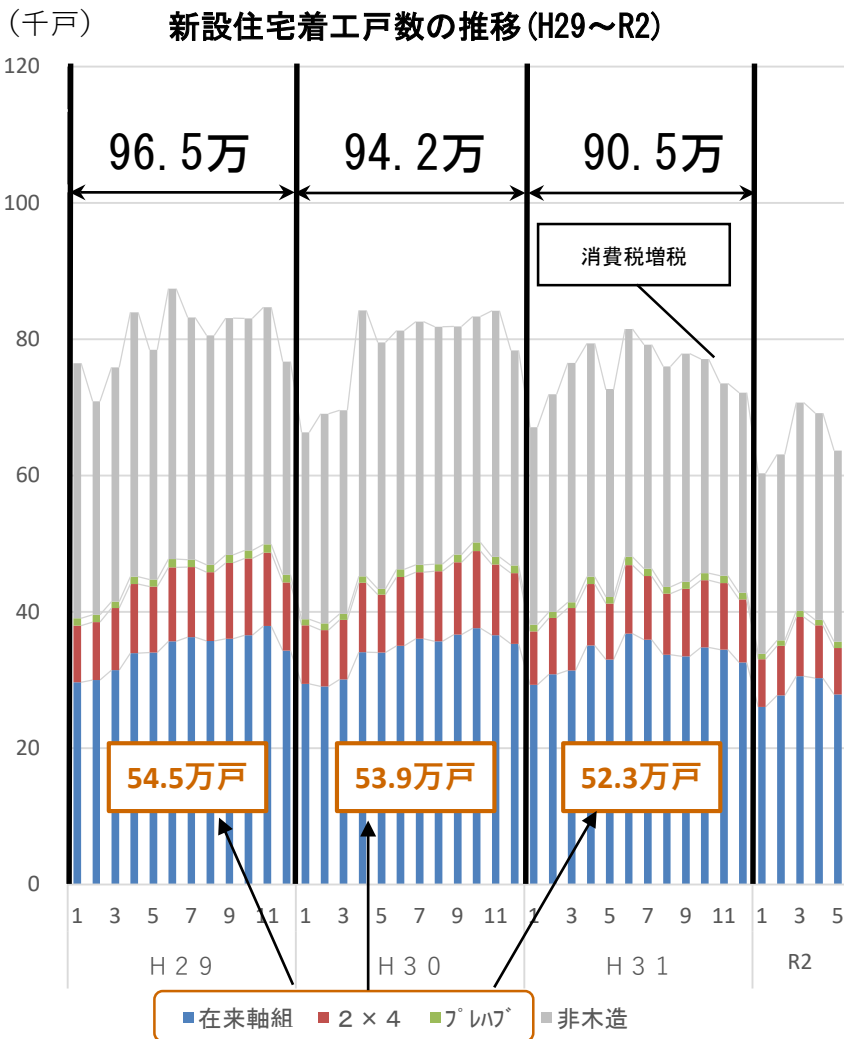
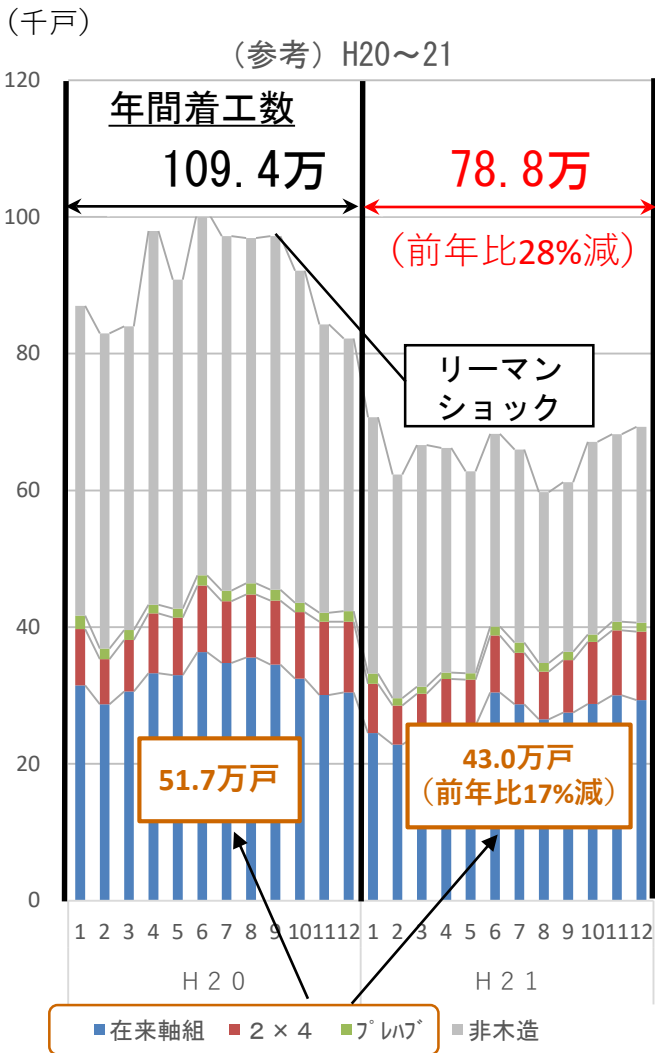
入荷制限を継続。
また、一部の工場で入荷制限の割合を引き上げ

➤ 具体的な声

- ・ 製材工場等で原木入荷を制限している。
- ・ 原木価格の引き下げ要請を行っている。

3 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年5月)

- ・昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸 (57.8%)**。
- ・**令和2年度1～5月**の木造住宅着工戸数は、**18.4万戸 (前年比11.1%減)**。
- ・緊急事態宣言が発令期間中、住宅メーカー等では営業時間を短縮、訪問打合せを中止しており、住宅展示場の来場者が激減するなど、**大手・注文住宅の受注機会が大幅減少**。今後の着工の動向を注視する必要。



今後の動向を注視する必要！

令和2年1～5月期 住宅着工戸数
総計 32.7万戸 (前年比11.0%減)
非木造 14.3万戸 (前年比11.1%減)
木質プレハブ 0.4万戸 (前年比11.9%減)
2×4 3.7万戸 (前年比11.8%減)
在来木造 14.3万戸 (前年比10.7%減)
木造18.4万戸 (前年比11.1%減) 11

資料：国土交通省「住宅着工統計」

4 主要木材の需給見通し（平成31年第1四半期～令和2年第4四半期）

林野庁が主催する木材需給会議では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・製材用丸太は、第2四半期（4～6月）に前年同月比77.2%と大きく落ち込んだが、その後は持ち直す。
- ・合板用丸太も同様に、第2四半期に87.6%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・合板は、第2四半期に88.9%と落ち込んだが、第4四半期に増加に転じる。
- ・集成材は、欧州からの輸入環境の悪化から、第3四半期以降大きく落ち込むと見通す。

（単位：千m³）（下段は前年同期比）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品 計	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入 計		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用		計				
令和元年 (平成31年)	4-6月	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	7-9月	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	10-12月	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
99.1%			102.5%	97.1%	94.2%	106.4%	83.6%	109.8%	111.4%	
年計			13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	1-3月	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	4-6月	見込み	2,600	1,100	619	1,315	730	612	465	220
			77.2%	87.6%	74.8%	83.9%	88.9%	99.7%	97.9%	104.8%
	7-9月	見通し	2,700	1,100	625	1,250	730	546	365	250
			88.6%	92.5%	95.0%	83.3%	86.8%	92.7%	74.5%	91.8%
10-12月	見通し	2,700	1,180	669	1,255	780	540	365	190	
		81.2%	97.4%	93.6%	92.8%	90.2%	83.3%	72.3%	88.8%	
年計			11,222	4,597	2,562	5,081	3,041	2,331	1,655	872
			85.6%	95.0%	84.7%	87.7%	91.5%	92.0%	86.4%	104.0%